

(様式4a号)

## 患者さんおよび患者さんのご家族の方へ

このたび当院では、以下の臨床研究を、滋賀県立総合病院倫理委員会の承認を受け、かつ病院長の許可のもと実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。

本研究の対象者に該当する可能性がある方やそのご家族の方で、ご質問がある場合、またはこの研究への参加を希望されない場合は、下記の担当者までご連絡ください。なお、本研究への協力を拒否されても、今後の治療を受けるうえで不利益が生じることはございません。

### 【研究課題名】

体表面モニタリングシステムを用いた左乳房温存手術後の深吸気息止め全乳房照射の PTV マージンの算出

#### 1. 研究の意義・目的

左乳房温存手術後の全乳房照射には、心臓などのリスク臓器の被ばく低減のために深吸気息止め(DIBH: Deep Inspiration Breath Hold)照射が広く用いられている。また、強度変調回転照射(VMAT: Volumetric Modulated Arc Therapy)を併用することで、ターゲット形状に沿って高線量を集中することができ、よりリスク臓器の被ばく低減が可能である。しかし、VMATは計画標的体積(PTV: Planning Target Volume)境界における線量勾配が急峻であるため、わずかな位置ずれがターゲット線量の低下やリスク臓器の線量増加を招く可能性があり、PTV マージンの設定が重要である。治療中のシネ画像を用いて二次元的に PTV マージンを算出した報告はあるが、三次元的に評価した報告は見られない。当院の治療装置には体表面モニタリングシステムが導入されており、3台のカメラの青色の可視光パターンから体の歪みを認識する。体表面モニタリングシステムは、追加の被ばくをすることなく治療計画 CT 時と体の位置がどれだけずれているか数値で確認することが可能である。体表面モニタリングシステムを用いて左乳房温存手術後の DIBH 全乳房照射の PTV マージンを三次元的に算出することで、適切な PTV マージンの設定により線量分布の最適化が可能である。

#### 2. 研究方法

治療時に記録した体表面位置データの解析を行う。

#### 3. 対象となる方

左乳房温存手術後の深吸気息止め全乳房照射を施行した患者

#### 4. 利用する試料・情報

2025年4月から2026年3月の期間で治療時に記録した体表面位置データ

5. 研究期間

倫理委員会承認日から2026年10月

6. 個人情報の取扱い

プライバシーの保護に配慮するため、患者さんの情報は直ちに識別することができないよう、対応表を作成し管理します。収集された情報や記録は、インターネットに接続していない外部記憶装置に記録し、パスワードロックのかかる情報対策を施したサーバーに保管します。

患者さんの個人情報は完全に匿名化されますので、個人情報が院外に漏洩することはありません。

研究成果は、患者さんの個人情報が明らかにならないようにしたうえで、学会発表で公表します。

7. 費用および謝金等

なし

8. お問い合わせ先

滋賀県立総合病院 放射線部 近藤 百華

〒524-8524 滋賀県守山市守山五丁目4番30号

TEL:077-582-5031